

立命館大学国際平和ミュージアム 平和教育研究センター

「3.11 後の平和博物館の展示内容の改善と国際ネットワークの構築」プロジェクト・公開講演会

日米対話交流イベント（米軍元捕虜の娘さんとの対話）

元敵国側は日本を今どうみているのか？ バターン・コレヒドールの闘いとは？

捕虜を運んだヘルシップとは？ 捕虜収容所の実態は？ 家族への影響は？

平和を創り出すにはどうすればよいか？ 展示方法は？

皆さんで考えてみませんか？



日時：9月4日（水曜日）2時～4時

会場：立命館国際平和ミュージアム 2階会議室

2時～2時20分 バターン・コレヒドール戦線・ヘルシップの解説

2時20分～3時10分 捕虜の娘 Dawne Clay さんのお話

3時20分～4時 対話・交流会

4時 まとめ、挨拶

※当日は逐次通訳を行います。

※参加費無料、申込不要

主催：立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センター「3.11 後の平和博物

館の展示内容の改善と国際ネットワークの構築」プロジェクト



【お問い合わせ】

立命館大学国際平和ミュージアム

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

電話 075-465-8151

FAX 075-465-7899

<https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/>

～米国人元捕虜の娘さんとの対話～

連合軍捕虜の大部分は、第二次大戦時の敵軍のうち、日本軍に捕えられ、収容所で戦時中に港湾労働や荷役人夫、工夫として強制労働をさせられました。元捕虜が受けた屈辱や体罰、暴力は多くの場合、家族の中にも浸透していきました。

捕虜が受けた厳しい罰や拷問は、心身の後遺症やPTSDとなって戦後の家族の中にも入り込み、家族のトラウマにもなっています。日本政府や一部の企業は元捕虜にお詫びの言葉を出しました。また、日本政府はアメリカ人元捕虜と家族を日本に招へいする事を始め、対話の機会を持っています。

このたび、パターン・コレヒドールというアメリカ軍史上最大の敗北地でつかまり、捕虜になった人の娘であるドーン・クレイさんが、外務省の「日米草の根平和交流招へいプログラム(※)」で訪日します。京都を訪問し、皆様と交流したいとのことです。皆様にも日本側から知りたいことや、疑問もあると思います。これを機会に、交流し、捕虜問題を知り、あるいは考えを述べ、戦争の記憶を将来に遺す戦争の展示法を議論し、相互理解にもとづく和解の機会に参加しませんか。

このプロジェクトも残る2年、貴重なチャンスですのでぜひご来館ください！

※日米草の根平和交流招へいプログラム：第二次世界大戦時の経験に起因した我が国に対する特別な感情を持つ米国人元戦争捕虜、その家族及びその他の介護人等を我が国に招へいし、心の和解を促すことを通じて、日米間の相互理解の促進を図ることを目的に外務省で行っている事業

【交通アクセス】



【交通案内】

- 川・近鉄京都駅より 市バス50
- 川・地下鉄二条駅より 市バス15・55
- 地下鉄北大路駅より 市バス204・205
- 京阪電車三島駅より 市バス15・50
- 阪急電車高丸駅より 市バス51・55
- 阪急電車西院駅より 市バス205
- IR丹波町駅より 市バス15・204・205

市バス15・50・51・506にて「立命館大学前」下車／徒歩5分
市バス204・205にて「わら天神前」下車／徒歩10分

※お車でのご来館はご遠慮ください。